

「教育の心理學」に関する研究と二つの世界大戦(II)

—戦時における臺灣・中國・フランスと日本の関わりを例に—

坂西友秀 埼玉大学教育学部教育心理カウンセリング講座

キーワード：教育の心理學、世界大戦、植民地教育、ホロコースト、抗日運動

2 中国・延辺朝鮮族自治州延吉市

はじめに

2014年3月5日から12日まで、中国吉林省延辺朝鮮族自治州延吉市を訪問した。小学校・中学校、大学で調査し、博物館、戦争記念館、龍井旧大成中学校、領事館、等を視察した。主な訪問先についてまとめた。なお、記念館等には、展示案内パンフレット、展示関連書籍の販売が少なかつたため、許可されて撮影した写真を資料として用いる。

成田空港から北京(Beijing)経由で延吉(Yanji)空港まで実質約5時間かかる(時差1時間)。北京空港が巨大で、乗り継ぐまでに、シャトルバス・電車での移動が数回あり、さらに搭乗口までの距離が長く、相当の時間を要した。民族問題があり、入国、乗り換え機搭乗時には保安員がゲートで荷物を開け、厳しいチェックを受けた。

1 地理・概況 延辺地区は中国の東北三省の中の吉林省にあり、ロシア、北朝鮮と国境を接し、東端はわずかに日本海に接する。延辺(Yuanbian)州の人口は、2010年現在219万人で、約67%は非農業人口だ。民族は、朝鮮族が37%、漢民族が60%を占めている(日本貿易振興機構, 2012)。6市2県から成り、州都が延吉(Yanji)である。中国の行政区は、省、県、郷の三段階制を基本にする(在日中国大使館, 2009)。全国には省、自治区、直轄市が、さらに省、自治区には自治州、県、自治県、市が置かれている。自治州には県、自治県、市が置かれているが、自治区、自治州、自治県はいずれも民族自治区である。56もの民族からなる中国ならではの自治区である。我々が訪れた延吉市の属する延辺州は、朝鮮族の人口割合が大きく、自治州である。したがって、延吉市は、吉林省延辺朝鮮族自治州延吉市と表記される(図1)。

吉林省は、「満洲國」の一部であった。帝政ロシアが英国に対抗するためにシベリア・モンゴル・「満洲」にかけて都市建設を図った南下政策と、対露戦略で中国東北部への植民地政策を進めた日本が対峙することになった(山本, 2011)。「満洲」は満洲族の民族名で、地名ではない。日本が傀儡国家として建国したのが「満洲國」で、黒竜江省、遼寧省、吉林省とモンゴルの一部を合わせた一帯である(山本, 2011)。

1990年代以降、労働力の輸出が延辺の経済成長の主要手段となり、地域的、言語的に優勢な韓国への朝鮮族の出稼ぎ(「コリアン・ドリーム」)が増加した。1978年の「改革開放政策」は、朝鮮族農民の都市部への、さらには韓国への進出と出稼ぎにつながった。1992中韓国交樹立も韓国への出稼ぎを促進する要因だった(金, 2012)。2007年から2011年の対外貿易国別統計では、相手国はロシア、韓国、日本、米国の順であり、延辺州と韓国の強い関係が表れている。2008年までは北朝鮮との貿易も計上されていた(日本貿易振興機構(ジェトロ)大連事務所 2012)。

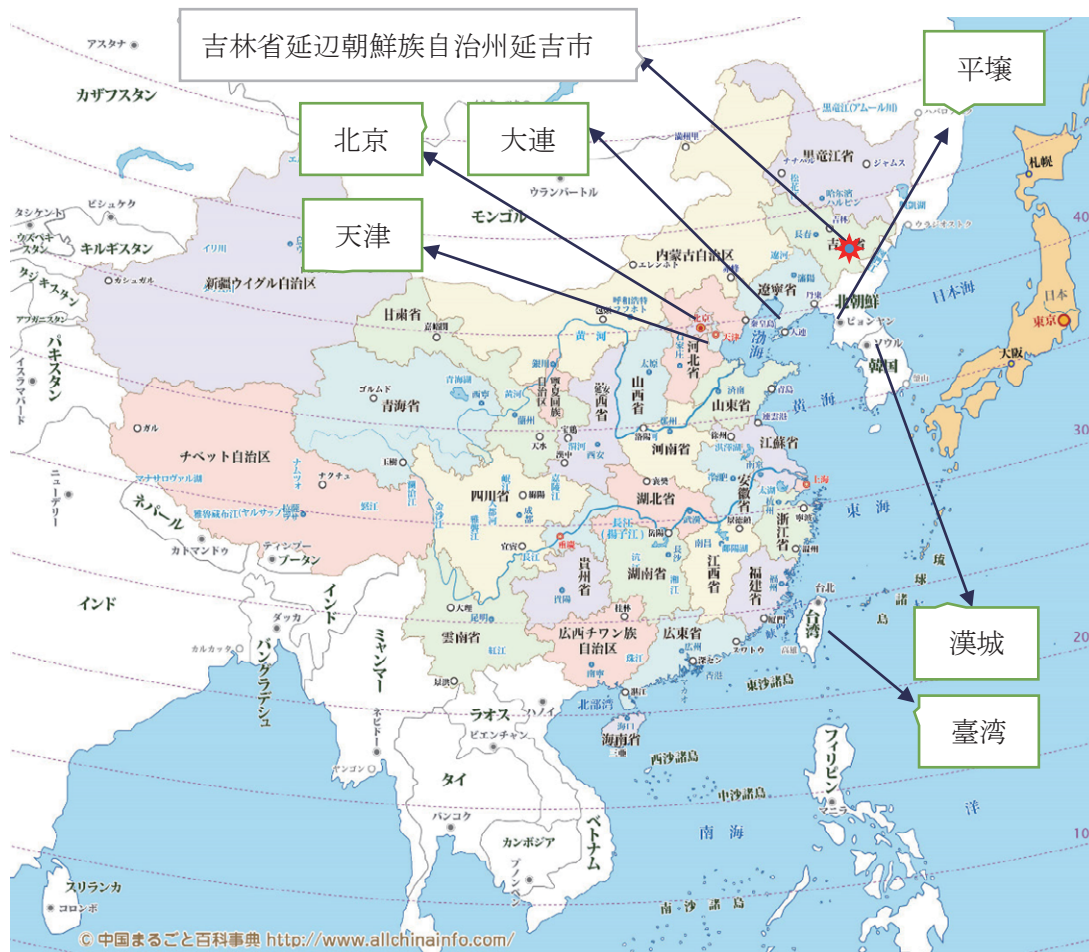


図16 東アジア全体図と吉林省延辺朝鮮族自治州
(中国まるごと百科事典, 2014より: 四角内は著者書き込み)

延辺区は、北はロシア東南は北朝鮮と国境を接する高緯度地帯に位置し、冬期には河川湖沼はすべて凍結する。延辺には朝鮮族の住民が多く、朝鮮半島と密接な関係にある。中国の朝鮮族の総人口は(2005年現在)192万3,800人で、主に吉林省延辺朝鮮族自治州に暮らす(他に黒竜江省、遼寧省、内蒙古自治区等)。使用言語は、朝鮮語と朝鮮文字である。56個の少数民族中回族と満洲族が漢語を、他は自民族の言語を使う(中華人民共和国駐大阪総領事館, 2014)。

延吉市朝鮮族住民(以下朝鮮族)には「出稼ぎ」をする人が多く、その出先は初期には韓国だった。朝鮮族の生活は、1900年代に農業中心の暮らしから現金収入を求めて隣国の工場や会社・企業で働く賃金労働者の生活へと大きく変化した。「出稼ぎ」増加には、中国、日本、韓国等東アジア諸国の都市化・工業化の進展が深く関わっている。

延辺は、現在「朝鮮族自治州」だ。吉林省の東部に位置し、東端は中国、ロシア、朝鮮に挟まれ日本海に隣接している。1952年に延辺朝鮮民族自治区に、1955年からは延辺朝鮮族自治州に移行した。東北三省(吉林、遼寧省、黒竜江省)の海外交流の窓口であり、経済・人口・地理の中心地である。州の人口は2271,600人である。朝鮮族の人口は全州人口の38.55%(2000年)で、1952年の62.01%より23.46%も減少している(中華人民共和国駐大阪総領事館, 2013年7月5日)。

延辺州延吉市は日本海に面し、韓国(延吉-羅津-釜山、延吉-琿春-ザルビノー-東草)への定期航路も用意されている。外資企業を誘致する積極的政策を実施し、西部大開発政策や東北老

工業基地振興政策が実施され、企業誘致と投資の勧誘・奨励が盛んに行われている。延辺朝鮮族自治州と日本の関係は深く、1980年代までは日本語が第一外国語として学校教育で行われていた。その後は、国際化の進展に伴い、英語教育が盛んになっているが、日本語教育は積極的に行われている（山本，2011）。

2 日本の侵略と中国朝鮮族 延吉市の略史は以下の通りある。1953年 延吉県から県級市に昇格した。その後、1985年には、国務院から全国甲級開放都市として批准された。延辺の歴史は、1902年に清朝政府が延吉庁を設立したことに始まる。延辺朝鮮族自治州は、かつて「間島（かんとう）」と呼ばれた。朝鮮半島の人々がこの地に移り住んだのは、1,600年代中頃（17世紀中頃）といわれる（山本，2011）。中国には多数の民族が共存しているが、前述のように朝鮮族は中国の少数民族で主に東北地方に居住している。19世紀中頃から1940年代にかけて、朝鮮半島の自然災害と日本による朝鮮半島植民地化政策等の影響で、朝鮮半島から中国に移住して、農業で生計を立ててきた（金・浅野，2013）。1885年に清朝の「封禁政策」が廃止され、朝鮮人農民の移住が加速した。1910年には15,000人の人口だったが、「満洲國」の成立前年には70万人に達したという（山本，2011）。日本による東アジアへの侵略が背景にある。1909年には、間島に関する「日新協約」が締結され、国境線が確定した。1910年の日韓併合後は国籍問題が発生し、形式上は「日本臣民」に位置づけられ、実際には中国と日本の両国の司法警察権に服した（山本，2011）。

姜（2011）は、中国東北部に朝鮮族が居住するに至る過程には、日本の朝鮮および中国への侵略が深く関わることを明らかにしている。「中国朝鮮族は、…近代中国の歴史において、日本の侵略と植民地統治の被害を最もひどく被った少数民族である」と指摘する（姜，2011，p.12）。日本の移民政策により、多くの中国朝鮮族が移民した。日本の朝鮮人の移民政策には「換位移民」政策期（1907～1931頃）、「自由移民期」（1931・満洲事変～1936頃）、「金融自作農移民期」（1936～1941頃）、「開拓移民政策期」（1941～1945）の4段階ある。1期では、日本人の朝鮮移住に伴い朝鮮農民の農地8割を支配し、破産した朝鮮農民を中国東北地域に移住させた。2期には、日本は朝鮮人の移民に賛否を示さなかった。3期には、経済恐慌から日本に流入する多数の朝鮮人を中国東北部移住に方向づけ、他方で朝鮮国内の「階級矛盾」緩和策として関東軍が中国東北部への「自作農」移民を推進した。4期には、敗退する日本の食料と労働力を充足するために中国東北部へ「開拓民」として朝鮮人の移民を進めた。「日本が朝鮮族を初めて利用して勢力浸透を始めたのは、日露戦争以後、『間島問題』を捏造してから」であり（姜，2011，p.15）、朝鮮族と日露戦争、日本のアジア侵略は深刻な関わりをもつものであった。臺灣統治と同様、「満洲國」の建設に教育は欠かせなかった。心理学者が、天津や奉天（瀋陽の旧称）で行った調査研究の背景には、極東アジアへの日本の侵略戦争と教化政策があった。

聞き取り調査・訪問調査

1 小学校

延吉市内の小学校、中学校、大学で「出稼ぎ」に関する調査を依頼し実施した。以下、調査をお願いした先生と校内の守衛室の職員に伺った話を基にまとめた。

中国は2学期制で、1学期は9月1日から翌年2月中旬、2学期は2月中旬から7月中旬までである。義務教育は、小学校6年間、中学校3年間の計9年間だ。教科の区分は日本とほぼ同じである。延吉市朝鮮族学校では、ハンゲルが使用されている（図18参照）。



図17 延吉市の小学校教室風景



図18 廊下に展示された子どもの作品

延吉市は自治州にあるが、教育内容は国の基準に沿っており、朝鮮族独自の教育を行うわけではない。訪問した小学校は、新築工事のため、隣の区画にある他所へ移転した中学校の空き校舎に仮住まいしていた。3月とはいえ校庭の日陰はカチカチの分厚い氷で覆われていた。砂埃がかかり、一見地面と区別がつかず、慣れない者には滑りやすく危険だ。調査は、体育の先生にお願いした。回収が終わる午後、再訪問することにした。

子どもの様子、教室の雰囲気は、日本と変わらず、元気に動き回る子、友だちと話す子、椅子に座っている子、それぞれである(図17)。廊下には、「交通安全」「火災に注意」「進んで読書」等のテーマで子どもたちが描いた絵が展示されていた(写真18)。帰り際には、子どもたちが、嬉しそうに給食を教室に運び、昼食の用意をしていた。

4年生から6年生117人の児童の調査結果を見ると、親の「出稼ぎ」が多いことがわかる。男女別、学年別に「親が出稼ぎに出た」経験の有無を集計すると、「経験あり」の児童は男子15名・女子58名、「経験なし」は男子10名・女子34名だった。学年別では、「経験あり」の児童は、4年生12名(56%)・5年生28名(67%)・6年生33名(65%)、「経験なし」の児童は、それぞれ10名・16名・18名であった。学年が上がると、親の出稼ぎが6割強に増える。「留守児童」が一般化している実態と流動化する地域の実情が、数値から想像できる。

2 中学校

市内の朝鮮族の中学校を訪問した。小学校同様、門で守衛に入校の許可をもらい記帳後に校庭に入った(写真19)。校舎入り口の手前に、教育方針・活動内容が描かれたカラフルなポスターが



図19 校門から見た中学校



図20 2013年延吉市優秀教師

ガラスケースでできた掲示板に貼ってあった。学校創立の歴史、学校の概要が記されている。隣には、「中学校成果展示」があり、模範学校、先進学校、先進基準党組織、実験学校、先進単位等の文字が並ぶ。並列して、「2013年延吉市優秀教師」として、女性4人の民族衣装で正装した写真が大きく掲示されていた（写真20）。

政治教育、思想教育、道徳教育、法政教育、心理品質教育の5つが挙げられ、「心魂」の徳育教育「心灵的徳育」教育を目指している。健康教育の推進が謳われ、火災時の救急対応もわかりやすく図解している。国の強力な指導の下、地域や学校の優れた取り組み、実績作りが奨励されていることを伺わせる。

1. 学校生活 調査を依頼し、親切に対応してくれた、数学担当の男性教師（権先生・仮名）に学校の様子と子どもについて話を伺った。生徒数は約500名で、落ち着いた雰囲気であり、問題が起こる学校ではない。問題を起こすような生徒は、他の学校に行くか、専門学校に進むことが多いとのことだ。「いじめ問題は、ないことはない。女子生徒が強く、彼女たちの間で起こることがある。文化が韓国に似ていて、女性に勢いがあるからかも知れない。子ども達の成績が上がったときは嬉しいが、勉強しないときは残念に思う。生徒と話すのは、思春期だから難しい。特に女子とは難しい」と先生は語る。



図21 1・2年生の教員室



図22 玄関空きスペースで体育の授業

生徒は、1年生の時に日本語に少し触れるが、特別な日本語の授業はない。朝鮮語と中国語を習う。授業は朝鮮語で行っている。中国の歴史は教えるが、韓国の歴史は教えていない。教職員は、校長、教頭、アシスタント、合わせて70名くらいだ。学校近くに、延辺師範大学と延辺大学があり、9月から10月には実習生が来る。1、2年生の教員室は2階にあり、各科約10人の先生で構成する。教員一人一人コンパートメントに分かれている（写真21）。コーヒーサーバーがあり、休み時間には自由に飲むことができる。職員会議は、週1回水曜日に開く。3階は3年担当の教員室になっている。各教員の机にはパーソナルコンピュータ（PC）が設置されている。PCの授業があるからだそう。体育の先生は男性のみである。授業は、男女に分け、同じ時間に同じ場所で男女に分かれて行う（写真22）。体をほぐす程度の体操の時間のような。朝鮮族のこの中学校では、女性教員が多いという。

2. 「留守児童」 出稼ぎに出る親は多い。生徒の9割近くが、「留守児童」に該当する。親の出稼ぎに配慮して、生徒に特別な話をする時間を設けているか尋ねると、「留守児童」が一般的な状態だから、学校で特に取り上げることはない。親に限らず、若者の延吉市から他所への移動は増えているという。最近では、韓国だけでなく、中国国内の北京や天津、上海など大都市に就職するケースも多い。地元には戻ってこない。帰って来ても仕事がないからだ。権先生は、以前は高等



図23 授業を受ける中学生の大半は「留守児童」



図24 普段は祖父母と暮らす子ども

学校に勤務していた。年々朝鮮族の子どもの数が少なくなり、高校の学校数も減少してきた。そのため、高校教員から中学校教員に変わり、今この中学校に勤務している、と話してくれた。延辺州、延吉市の朝鮮族全体の動向、社会的状況に学校教育が大きな影響を受けていることを示している。

出稼ぎの実態について権先生は、次のように話す。「子どもの95%の親は、韓国に出稼ぎに行きます。他の国にも行きますが、少数です。片方の親が、韓国に行く場合が多く、子どもは時々親の出稼ぎ先に遊びに行きます。どの子の親もみな出稼ぎに出ているので、取り立てて配慮した教育することはありません。出稼ぎが始まったのは、1980代から1990年代にかけての頃からです。ここ延吉では稼げないからです。延吉市は消費の都市・街なのです。生徒は、まだ中学生で「未熟」だから、自分が将来どうしたいのか、はっきりとはわからないんですね。子どもの中には、寂しい思いをしている子はいると思います。親が出稼ぎに出て、家にいないわけですから。影響はあると思います。両親が出稼ぎに出ている場合、子どもの成績が芳しくないことがあります。小学校の頃から、心の痛みがあるし、心理的に問題を抱えることがあると思います。家族に問題があるとき、それが子どもに悪影響を及ぼすのではないのでしょうか」。しかし、家族の結びつきは、以前からあったし、今でもあると権先生はいう。家族のまとまりや親族の関係は、今も昔もあまり変わらないということである。朝鮮族は、兄弟姉妹、従兄弟・従姉妹、親戚の間で親密な交流をし、大家族的な人間関係を大切にしている。祖父母に育てられる子が多い。安心して家庭・学校・社会で子どもたちが日々を送ることができるのは、親密な「大家族」が今も生きているからだ（図23・図24）。

7年前まで、高校・中学校で日本語の教師をしていた警備員の男性に話しを伺った。中学校と高等学校で日本語の教師をやっていた人だ。日本に行ったことはないという。かつては日本語を学校で学んだこともあったが、今日本語の授業はないそうだ。親の中には、趣味として1時間程度有料で日本語を子どもや希望者に教える人もいる。朝鮮学校の先生は、ほとんどが朝鮮族の人だ。ただし、英語の先生は、大半が漢民族の人なのだそうだ。中国語が、英語の構造（文法）と似ていて、中国語と語順が全く異なるハングルに慣れている朝鮮族の人より英語を習得しやすいからだという。

3 大学

延辺大学を訪ねた。市内の丘陵地帯にあり、大学からの見晴らしはとてもよい。大学生対象の「親の出稼ぎ」に関する調査を依頼した。李教授は快諾し、調査を実施してくれた。日本語の授業の



図25 延辺大学の一部遠景



図26 大学図書館新館

見学も手配し、さらに附属図書館も学生に案内するよう調整してくれた。

朝鮮族自治州にある延辺大学は、朝鮮民族関係の研究で国の重点大学に指定されている。大学の公式データを参考にする（独立行政法人・科学技術振興機構，2014a, 2014b）。朝鮮語、韓国語の文献蔵書が中国国内で最も多い。国直轄ではなく、主管は吉林省教育庁である。校長の履歴を見ても自治州の特徴が強く表れている。吉林省出身の朝鮮族であり、博士の学位はソウル国立大学で取得している。大学の特色・強みの一つは、「民族的な特色を有する総合大学、国家東北部重点開発大学」であることだ。全国的に有名な研究施設である朝鮮族の歴史・文化研究所などをもっている。

国政に幹部人材を輩出し、近年大学の整備が進んでいるとの話しも耳にした。2012年の資料では、教職員数2,847人、学生数21,752人の大規模大学だ。数年前から医学部と農学部も同じキャンパスに統合された。校舎のほとんどが4年前に新築された。全国に占める延辺大学の地位も上昇しているという。医学部は、全国でも有数の実力ある大学であるとのことだ。

1. 日本語専攻と教育 日本語専攻の李先生の研究室に伺った。先生は、一年間熊本大学に留学した経験がある。調査をお願いした授業は、日本語学科の学生32名と教養学科の学生10名が対象だ。日本語学科には日本人学生の枠が3名あるが、現在2名しか在籍していない。以前は、中学、高校で重要な外国語は日本語だったが、最近延辺大学では日本語を専攻する学生は少ないという。長春や吉林省から学生を募集しているそうだ。他の大学でも日本語専攻の学生を募集するところが多数あり、就職時に学生の希望が競合して採用が難しくなる。日本企業が多数進出している大連などに就職先を見つける学生が増えている。

日本語学が独立して開設されたのは2007年からで、その前は言語学に含まれていた。2015年からは博士課程が新設される予定だ。修士課程には日本や韓国の学生が多い。修士課程の修業年数は3年間だ（研究生期間も含めて）。修士および博士課程に進学できるのは、本科大学を卒業し、全国研究生入学テストに合格した学生のみである。大学院修了後は教員（大学）になることを希望する学生が多い。民営（民弁）大学（私立大学に当たる）では修士の学位を持つだけでも教員になることはできるが、国立大学では博士課程を出ていないと教員への就職は難しい、と李先生は語る（図27・図28）。

大学の教員には、吉林、延辺、長春出身者が多いという。担当授業数は、年度で変動し、少ないときで通年10本（コマ）、多いときは12本から14本になる。「今学期は4年生の授業がないので楽なんです」と話していた。教員評価が導入され、学生評価と教員相互評価の2つがある。後者は教授と准教授が相互評価する。授業以外に会議があり、選んで参加するが（月1、2回程度）、



図27 研究室で李先生と調査の打ち合わせ



図28 延辺大学外国語学院掲示板

時間がかかることがある。授業数、会議、教員評価等の実態は日本の大学と似た状況にあるようだ。副業や他校での非常勤講師勤務は禁じられている。

2. 入学と学生生活 学生の事情について、李先生の研究室生である4年生の金福松氏（以下福松さん）に話を聞いた。福松さんは、吉林省梅河口市の出身の朝鮮族の女性だ。朝鮮族の少ない地域だという。祖父母の時代に、韓国での生活が厳しく、中国に行けば食べることもくらいはできる、と移住してきた。延辺（延吉市）からは列車、バスを乗り継いで約10時間かかる。彼女の両親も小学6年生のときから韓国に出稼ぎに出ている。祖父母（母方）と暮らし、特に寂しく思ったことはないという。李先生の話では、先生が子どもの頃には、親の出稼ぎはそれほど多くなかったそうだ。働きに出る場合でも、子どもが高校生か大学生になってからだった。80年代後半から出稼ぎ者が増えたと語る。「今はほんとに増えて、90%くらいの親が出稼ぎに出ています」と李先生は振り返る。

福松さんは、今学生寮で生活している。16棟の寮があり、女子寮8棟、男子寮8棟で男女半々である。有料だが、寮費は安く生活しやすいそうだ。食事は学内の食堂を利用しているが、一般の市民は利用できない。支払いは、すべて大学専用のカードを利用する。大学は、入学時に新生に心身・生活の状態をアンケート調査し、個別の面談を実施している。かつて30人のクラスに問題はなかった、と李先生はいう。「最近は気になる学生がクラスに2、3人はいるかもしれない。留守児童の子は、小さい頃からおじさん・おばさんと生活しているので、寂しい思いをし、問題を抱える子もいる」、と福松さんは思っている。

高校は、地域では唯一の朝鮮族の学校に入学した。延辺大学に入るには、少数民族は入学試験で10点の特別点が追加配点される。「入学最低点を10点低くし、入学が優遇されるということかな」と彼女は笑う。国の発展を期して国家が投資する選ばれた重点大学、そこへの入学は難しい。延辺大学も重点大学の一つだ。

4年生の時にインターンシップがある。在学中に企業で就業体験する制度を指すが、実質を伴わず指導教員から印鑑をもらうだけの学生も多いという。福松さんは、研究室で仕事をしてインターンシップに代える。親戚は韓国にいたので、（韓国に行かないで何もせず）印鑑だけもらうのは難しいと話す。先生の下で1ヶ月働いて印を押してもらえる。私たちとの懇談後に、福松さんに大学図書館を案内していただくことになった。彼女曰く「これもインターンシップの一部です」。学生は真面目で、教師と学生の関係も節度があった。

3. 専門教育と学習環境 論文指導の担当教員が割り当てられ、一人で4人から5人の学生を受け持つ。指導は、李先生の場合メールも利用して一人一人個別に行く。全員が集まり、ゼミ形

式で一斉指導することはない。学生の研究テーマ、学生の関心分野に応じて、学科で適した先生を紹介する。スポーツ、文化、料理など学生が扱う範囲は広い。福松さんは、文学で論文を書くので、李先生と同室（研究室は教員2名で共用）の先生の指導も受けているという。論文は、8,000～10,000字程度の分量である。大学院生は13人ほど在籍し、3年間学ぶ。M3(修士3年生)はインターンシップ期間で、大学に出校しなくてもよい。

大学院進学者は、1月にある統一試験の受験が必須だ。試験は、3、4ヶ月前にネット上で公示され、各自が志望大学・専攻を決めてネットで申請する。政治専攻は必ずあり、大学院進学「塾」もある。大学院を希望する4年生が申し込み、結果は5月に公表される。

卒業論文（2～3単位）の作成は必須で、日本語や英語の講読（3単位）の授業もある。毛沢東理論とマルクス理論は必修である。学部生は選択科目を履修するが、授業は午後・夜間に開講する。授業時間は1コマ「45分、5分休憩、45分」（合計95分）だが、先生によっては5分休みをとらないこともある。クラスの人数が少なく、教員は学生の顔を覚えているので、出席確認は容易である。真面目な学生、積極的な学生はよく勉強する。不真面目な学生は勉強しない。福松さんが見る限り、学生間の「いじめ」はない。高校でもなかった。しかし、中学校ではあったと振り返る。特に中学2年生では起こりやすいという。「かわいい女の子」がいると、嫉んだ女子がトイレに呼び出していじめる。いじめられた子の中には、「退学します」と自分から学校をやめる子もいる。こんな事例を紹介してくれた。「大学では自殺はほとんどなく、5、6年に1回あるかないかな」、李先生の談である。

授業の様子を実際に見せてもらうことにした。日本語の授業である。先生は、小柄な若い女性教員だった。受講生は27名で男性より女性が少し多かった（図29）。びっくりしたのは、先生の話す日本語が、きれいでもとても流暢だったことだ。生粋の日本人より話すことばは柔らかく滑らかで、はるかに明瞭で澄んだ日本語だった。日本に留学し、住んだことがあるか尋ねたが、「ない」とのことだった。

導入は、大画面で文法と例文を提示し確認する、前時のおさらいだった。分厚い日本語のテキストに沿って授業は組まれている。続いて、授業の中心部分に入った。4、5人でグループを作り、日常生活場面の会話（デパートでの買い物、食堂での注文、等々）を日本語で台詞にし、役割を決めて、クラスの前で寸劇風に演じるロールプレイングの宿題だ。8グループあり、テーマ・内容は、デパート店員との会話、食堂・レストランでの注文や鍋を囲んでの懇親会、日本料理店での店員の案内、お土産に買う絵はがき選び等であった。一例を示そう。延吉デパートで友だち3人と買い物をする場面だ。女性用衣料品売り場：お客「これいくらですか?」、店員「これいいで



図29 日本語授業のロールプレイ



図30 書架の日本の医科大学研究書

すね?」、お客「いや、こちらをお願いします」…。各グループの演技が終わると、「店員さん、不親切ですね」等、先生は簡単なコメントを付して、日本語の指導をする。授業後半では、4人1組になり、ワークシートで作業をし、最後にグループ発表をしていた。

授業は、先生が大きな声を出すこともなく、静かに穏やかな雰囲気に進んだ。学生参加型でみな生き生きとしていた。どの学生も真面目に授業に臨んでいるのが印象的であった。

大学の重要な勉強環境の一つである図書館を見学させてもらった。学生の利用カードを借りて入館できるように李先生が取り計らってくれた。館は新しく、エレベータが利用でき、移動に便利であった。入り口のホールは広く、奥には文具や小物を売る売店と「しゃれた」喫茶・食堂がある。中は静かでゆったりとした自由な雰囲気、居心地のよい空間だった。旧館は古書類を所蔵し、新しい蔵書・資料は新館へ移管するとのことだった。4階5階には、医学関係の雑誌・紀要類が収納され、よく揃っていた。日本の文献、例えば九州大学医学部等の紀要類も製本されて並んでいた(図30)。各階には、個室や集団学習室、教員用の閲覧室・作業室・小会議室なども設置されている。自主的学習を促す図書館の環境・学内環境の整備は、中国でも一つの潮流になっているようだ。

延辺大学は、国立の総合大学でありかつ重点大学である。規模も大きい。教員も学生も意識と誇りが高く、落ち着いた環境にある大学であるとの印象が強かった。

4 戦争記念(記念)館・大成中学校

牡丹事件に始まり、日清戦争・日露戦争、そして世界大戦へと突き進んだ日本。アジア諸国を植民地化し、乱暴の限りを働いた日本に対する抗日運動は激しかった。現地での受けとめ方と展示の実態を知るために関連する史跡・記念館・資料館を訪ねた。

1. 延辺博物館 延辺州朝鮮族の伝統的な暮らしを知りたいと思い、「総合性歴史博物館」である延辺博物館を見学した。市内から少し離れた延辺空港近くの郊外にあり、開発途上にある新興地域に立地している。周囲には大型体育館、大規模団地がある。3月、日差しが強いとはいえ、風が肌を刺すように冷たい。市内循環バスで20、30分の距離だ。

入館者は少なかったが、大学生らしき集団と、ガイド付きの団体見学の一行に会った。案内パンフレットがないこと、展示を解説した書籍の販売がないこと、さらに、午前の開館時間が短いこと(9:30~11:30・昼休みが長い)が残念だった。入館は厳しく、パスポートの提示(一名で可)を求められた。一階には、中国共産党及び延辺州・延吉市の歩み、産業、スポーツ、著名人の写真などが展示(常設)され、特別展示室にはロシアの田舎の自然、風景画(油絵)が展示されていた。一階は写真撮影が禁じられた。2階には、朝鮮族の入植の歴史(清の時代、「日本帝国主義支配時代」、戦後)が展示されている。フラッシュなしの撮影は自由だった。

館は大きな期待と役割を担って、1960年に設立された(延辺博物館, 2014)。「重点的に延辺朝鮮族の移住者史、朝鮮族の民俗風情、朝鮮族の革命闘争史および延辺建州60年以来に経済社会の発展で収めた実り多い成果を紹介する博物館として、…延辺が革命伝統の教育や愛国主義の教育を展開する重要な基地である。…中国における朝鮮族博物館がない空白を埋められただけでなく、中国朝鮮族の歴史文化と現代的文明の展示も土台を築いた。」(吉林政府ネットワーク管理事務室管理営業, 2013)。朝鮮族の人々の日常を過去に遡って知するのに欠かせない施設になっている。展示品に添えられた表示を見ると、ハングルと中国語が併記され、朝鮮族の暮らしが複数の文化の中で営まれてきたことがわかる(図31・図32)。



図31 延辺博物館



図32 朝鮮族の伝統的家庭風景の再現

文化・生活資料の展示に次いで、「日帝」による朝鮮族の統治の歴史が写真資料で紹介されている。日本軍が、中国東北部に進出してくるのは、日清戦争（1894年～1895年）である。中国軍に勝った日本軍は鴨緑江を越え旅順（大連）に進攻・占拠し、満洲族の地に進軍した。日清戦争終結で清から遼東半島と澎湖列島の割譲を受けた。すでに朝鮮半島に進出していた日本は、日露戦争以前に中国東北部に足場を築きつつあったのである。以下は展示写真のいくつかの説明文である。延辺州・延吉に統治機関を設置し、日本の植民地支配が拡大していく様子が時間的な流れの中で把握できる（表1）。

博物館の概況紹介では、日本の中国・満洲國への侵略を、朝鮮族の歴史の暗黒の時期として克明に記述している。朝鮮族の中国東北地域への移民は、第一期から第四期に大きく区分されるといふ（延辺博物館，2014）。

第一期は、清代初期、1860年以降、特に1869年、1870年の大旱魃による貧困から、飢えをしげる地域を求め、豆満江（中国名図們）を渡り満洲族の地に朝鮮人が入った時期である。主に

表1 延辺博物館 「日帝」植民地施策と抗日運動歴史写真の説明例

年 月 日	日本統治時代の写真のタイトル・説明
1902年秋天	清廷在南崗（崗）设（設）立延吉庁
1909年9月4日	日帝逼迫清政府在北京签（簽）订（訂）不平等的中韩《中韩图（圖）們江界务条约（們江界務条約）》、在龙井（龍井）设（設）立总领事館（總領事館）和警察所
1910年	日帝吞并朝鮮、使朝鮮变（變）成日帝的殖民地 在局子街成立了延辺地区朝鮮族自治機構“垦（懇）民会”
1913年4月26日	在局子街成立了延辺地区朝鮮族自治機構“垦（懇）民会”
1925年6月	奉天警務局長于珍与（與）朝鮮總督府警務局長三矢宮松…残酷地鎮压朝鮮族反日活动（動）…」
1931年9月18日	「1931年9月18日 日帝悍然发（發）动（動）“九一八”事变、仅仅（僅僅）个（箇）多月就侵占（佔）东北的大部分地區」
1932年8月	日本关东军（關東軍）指使滿鉄經濟調查会 炮（砲）制「滿朝鮮人移民（對）策綱（綱）要」、实（實）施对朝鮮族人民的“統制与（與）安定”制作」
1932年	日帝在新京扶持清朝末代溥仪（儀）建立伪（偽）“滿洲国”」
1936年3月	日帝在朝鮮成立“滿洲拓殖株式会社”
1936年8月	日本关东军（關東軍）和伪（偽）“滿洲国”制汀「滿朝鮮人指…将延辺…指定为朝鮮族聚居区 强迫朝鮮族破产农（農）民移居中国东北」

（延辺博物館展示写真より作成・2014年，抜粋）

北朝鮮からの「飢餓移民」であった。豆満江を越えた朝鮮人居住地を間島（欄島）と呼び、その由来も記している。1885年の満洲への移民禁止の撤廃も漢民族の移動に拍車をかけた。間島をめぐって日本が介入し、日本の植民地政策が影響を及ぼした。

第二期は、日韓併合条約以後の移民である。1910年の韓国併合から1931年9月18日の柳条湖（南満洲鉄道爆破）事件の時期である。「関東軍」の文字を展示の中に見ることができる。日本が韓国を併合し、農民に限らず労働者、軍人、知識人、等、韓国から多くの人々が中国に移動した。第三期は、1931年から1945年の日本の敗戦・撤退、8月15日降伏までの時期である。日本の移民政策による人々の強制的移住である。第四期は、1945年8月15日以降から現在に至る時期である。

2. 延辺革命烈士陵園 延辺大学から車で10分ほどの所に「革命烈士記念陵園」がある。陵園は記念碑や施設の総体として1964年から建設し始めたが、文化大革命の影響で中断された。1992年11月30日に定礎式を挙げて施工され始め、現在の陵園が建設された（チェ・ククチョル、2009）。陵は、王族のお墓を意味するが、中国・朝鮮族の愛国戦士、英雄を祀る墓地である。牌楼、烈士記念碑、彫刻群像、烈士記念館、烈士陵、烈士納骨堂で構成される。烈士記念館には、朝鮮族烈士の革命的奮闘・戦闘の歴史が、多数の原資料と共に展示されている（表2）。19世紀後半から日本の侵略は始まり、「侵略の歴史」は記念館展示の大きな部分を占めている。記念館の裏には、10個ほどもあろうか、大きな石版が建ち並び、圧倒される。戦争で亡くなった烈士の出身地と名前がびっしり刻まれている（図33・図34）。

記念館に足を踏み入ると、最初に「第一部分 先驅（驅）者的足跡（跡）」の案内が目に入る。まさに、館は植民地支配から国を取り戻す住民と戦士の戦いの跡を記したものだ。打倒すべき相手は日本だ。来館者はほとんどいなかった。静けさの中で、現地であれば感じ取れない歴史の重苦しさが迫ってくる。展示室は、時代を追って第一部から第七部までである。「第一部 先驅者的足跡」は、「革命烈士」の不屈の戦いを明瞭に表現している（表2）。

1860年以降、自然災害の被害が甚大で、飢えをしのぐために朝鮮半島から清朝の封禁令を破って、朝鮮族の人々は移り住んできた。1880年代には、清政府は封禁令を廃止し、開墾が進んだ。1885年に国を愛する官員吳大澂重が中国とロシアの東北部辺境を守備し、理知的な力によって最

表2 延辺革命烈士陵園 「日帝」植民地施策と抗日運動歴史写真の説明例

年 月 日	延辺革命烈士陵園展示案内説明
1880年以降	1860年以后 由于朝鮮連年遭受自然灾害、朝鮮边民不顧朝鮮的鎖国令和清朝的封禁令犯越圖們江迁入至延辺寻求生路。
1881年	1881年清政府废对延边的封禁令、实行了移民实边政策、设立垦局和越垦局招募关内的汉族和朝鮮移民到延辺垦荒拓地。
1885年	1885年、爱国官员吳大澂重勘中俄东部边界、据理力争终于补立“土”字牌、收回黑顶子、争得圖們江口通航权、从而捍卫祖国的神圣領土。
1907年8月	1907年8月、日本帝国主义將侵略魔爪伸向延辺、
1909年9月1日	1909年9月、在龙井设立总领事馆和警察署、加强了对延边的统治。20世纪初、近代学校教育运动不仅是后蒙延辺各族人民民族意识的主要手段、也是反日运动的主要内容。
1919年	1919年龙井”3.13“反日示威运动迅速发展成为全民即的反日运动。
1920年10月1日	1920年10月、为了粉碎日帝为动的”庚申年大讨伐“、延辺地区反日武装部队、在和龙县青山里为动青山里战役、歼灭（殲滅）大批日本侵略军、取得了眩煌的胜利。

（延辺革命烈士陵園展示写真より作成・2014年）

後まで戦い勝利し、「黒頂子」を取り払い“我が地”と書いた字牌を建立した。海上の通航権も確保し、国の神聖な領土として守るようになった。1907年になると日本帝国主義の魔の手が、延辺にも伸びてきた。1909年9月1日、日本は、龍井に総領事館を創設し日本警察署を置いて、延辺の統治を目論んだ。20世紀初めの近代学校教育運動は、延辺各族人民の民族意識を啓蒙するだけでなく、反日運動の主要な手段であった。教育を通じた民族意識の高揚、これが反日運動の中心的内容だ。1919年の龍井“3.13”反日デモが急速に発展し、全民衆の反日運動につながった。1920年10月、日本帝国主義を粉砕するため“庚申年大討伐”を計画し、延辺地区反日武装部隊が和龍県青山里で“青山里の戦い（頂役）”を組織して日本軍殲滅を図り、栄光の勝利を得た。これが説明の概要である。

1910年代に入り、日本軍の朝鮮族支配が始まると、龍井を中心に抗日運動が起こり、学校教育は朝鮮族の民族意識と自治意識育成の強力な手段となった。1945年8月15日、日本の無条件降伏によって戦争は終わった。しかし、すぐさま平和が訪れ、朝鮮族の地方自治が確立されたわけではない。「第六部分 战略反抗解放东北 历史概况」は、彼らの戦後の闘争の展開を示す。1947年5月、戦略的反攻に入って東満独立師と吉東警備2旅は6縦隊と協同作戦を行い、桦甸、磐石、海龙、双阳等の県を解放し、四平戦闘と東長春戦闘などを通して、東満根拠地と南満根拠地を一つに合併した。主力部隊に編入した延辺兵士たちは秋、冬の攻撃で数十回の戦闘を重ね、国民党軍を長春、瀋陽、錦州などで孤立に追い込んだ。

1948年秋、延辺の兵士たちは、長春包圍戦、錦州攻撃戦、瀋陽解放戦闘で勇猛をふるって、東北を解放するのに大きな貢献をした。特に、黒山一大虎山戦闘では、延辺の兵士が多かった10縦隊が戦地を守った。国民党の5つの軍と戦い12個の師を3日間防御し、錦州戦役の勝利を確実にし、主力部隊と一緒に国民党の廖耀湘団を全滅させる功績をあげた。

後方の人民は工業生産を回復させ、鉄路を復旧し、武器を生産し、運送隊を作って前線を支援した。この時期に延辺の人民は『人力が必要であれば人力を、荷車が必要であれば荷車を、食糧が必要であれば食糧を』という原則を立てて、強力な前線支援事業を行った。

日本統治時代の「悪徳地主」の追放と「日帝走狗精算闘争」が行われ、「海蘭江虐殺事件」精算大会を開き、東北部全体の解放につなげた（高句麗研究会，2014a）。農地の解放は、大きな課題だった。「抗日戦争に勝利したその時期、東北には国民党の軍隊は一人もいなかった。しかし国民党はアメリカの支持と援助の下に…1945年10月から大量の軍隊を派遣、1946年6月…長春（瀋陽）、四平、吉林を次々に占領した。…蒋介石は160万の軍隊を動員して解放区に対する全面的侵攻を発動した」。日帝に代わって国民党との戦いが続いた（高句麗研究会，2014b）。その後1950年には、



図33 龍井大成中学校教科書



図34 抗日戦で戦死した烈士名が刻字された碑

朝鮮戦争が起き、休戦を経て現在に至る。

抗日闘争の視点から朝鮮族・中国の近現代史が詳細に示されている。館の裏には、烈士の名前が刻まれた大きな石碑が建立され、並んでいる。夥しい数の犠牲者である。石段を上ると陵墓がある。訪問者の人影は全くなかった。「朝鮮戦争」が続く今、戦争は過去のものではなく、日本の現在にも深く関わることを「革命烈士」は強く伝えている。

龍井市と朝鮮族 日本が中国東北部に進軍し、領事館を設置し住民を統治したのが龍井市だった。抗日運動の中心的地であった龍井市、詩人として知られる尹東柱（ユンドンジュ）の育った地でもある。龍井市まで、延吉市内から車で50分程である。案内をお願いした金香春氏（以下香春さん）に伺った話を基にまとめた。彼女は、日本語通訳として初め3年間北京で過ごし、その後延吉市で史跡など案内するようになった。次第に自民族（朝鮮族）の歴史を知ることが重要だと気づくようになったという。龍井市へ向かう途中、左手に一本の河が見えた。海蘭（蘭）江だ。一帯は朝鮮族の人たちが開墾した地域で、平地と河があり地味のよいところだ。市民の森も整備され、周囲には870haの農地が広がる。果樹が多く、リンゴ梨の産地として有名だ。しかし、地元でも知らない人が多いという。特産品でロシアや日本に輸出している。自然が豊かで、熊の肝を肝臓薬に加工する工場があった。延吉市はかつて渤海といい、日本の秋田との交流があり、豚の輸入も行われたそうだ。

龍井市は人口約19万人で、66%は朝鮮族である。学校でも朝鮮族の歴史を教えている。龍井は朝鮮族の開拓地で、1858年に開拓民が住み始めた。1886年に「龍が空を飛んでいた」ことから、この地名が生まれたと伝えられる。その頃朝鮮族一人々々の生活は貧しく、食べ物も少なかった。白头（頭）山（長白山）は、中国吉林省と北朝鮮両江道の国境地帯にある山で、朝鮮の人々にとっては聖山であった。中国・清朝は当時満族発祥の地としてこの地への入植を禁じていた。この禁止を破り、生活苦を凌ぐため人々は朝鮮から日帰りでも渡り、開墾を進めたという。1800年代にはロシアが黒竜江地域を領土化し中国と拮抗していた。1900年代に入ると抗日運動で朝鮮族が入ってくる。彼らは国籍を持たず、文字も使えなかった。「日本時代」に日本式の教育が実施され、東北部の支配を進めた。抗日運動を支えるために教会は秘密裏に自らが求める教育を行った。その民族教育の一つが「瑞甸書塾」で、創始者は李相高（イ・サンソル）だった。教育が民衆の力の基礎になることを示している。

龍井3.13反日運動、龍井で起きた反日運動である。“1919年3月13日に起こった反日デモは、延辺地区の朝鮮族人民が日本帝国主義の朝鮮侵略と中国侵略政策に抵抗して立ち上がり、民族独立を勝ち取るために展開した革命闘争である。同月17日、龍井合成利共同墓地で殉難烈士を弔う儀式を盛大に行った。“日本帝国主義と地方当局の残虐な罪行に抗議する”、記念石碑に刻まれた碑文だ。そこには19人の烈士の名前が刻まれている（高句麗研究会，2014c）。今では自分の民族の歴史を知らない人が多く、1920年代の安重根事件や1946年に朝鮮族が中国民と認められたことを知らない人もいるという。

1920年代に土地を購入する資金が必要になった。朝鮮族の人たちは、北朝鮮から日本円で当時15万円を運び込んだ。ロシアから銅などを買いつけるためだったが、密告され事が発覚した。日本軍に見つかり、ソウル（高城）の東大門にある刑務所に入れられた。一人を除いて皆殺されたという。洪範圓將軍、金佐鎮將軍などの抗日烈士が運動を牽引した。

香春さんの伯父さんは中国に住んでいた。にもかかわらず、中国語はできなかった。日本語はでき流暢に話したという。彼女は、幼少時からそのことを不思議に思ったことはなかった。歴史・

史跡ガイドになってから「中国人なのにどうして?」と思うようになったと話していた。それほどまでに日本の支配が徹底し、母語の中国語さえ使えなくした。日本語を「母語」として強制し浸透させたということである。

龍井中学校(旧大成中学校)学校・学生は、抗日運動に大きな役割を果たした。「日帝」に対抗する住民の力を育成し、意識を覚醒させたのも、人々を集結させたのも学校であった。今資料館として朝鮮族独立の戦いを展示し伝えるのが、現龍井中学校隣にある歴史記念館(旧大成中学校)である。旧校舎は壊され1994年に当時のままに再現・復元されたという。尹東柱詩碑が建ち、詩が綴られている。学校正面入り口には「私立 大成中学 龍井市青少年愛国主義教育基地 大成儒教」と書かれた文字が目に入る。1階には当時の教室が再現されている。薪を燃やすダルマストーブが中央に置かれ当時を忍ばせる。2階には朝鮮族の中国東北部への移民の歴史と、抗日の戦い、朝鮮族の独立への道のりが写真展示されている。龍井が生んだ詩人・尹東柱(ユン・ドンジュ)は重要な文化人烈士として紹介されている。



図35 復元された大成中学校



図36 朝鮮族の女学生(裁縫の授業)

龍井は教育の中心であり、周辺にはいくつかの学校があった。草分けは、李相高が創始した「瑞甸書塾」であった。彼は、朝鮮族の次世代を育てるために、私財を投じて朝鮮族伝統の教育(学書堂教育)を刷新し、1906年に中国朝鮮族地域では初めての新式の書塾・私立学校を開校した。学校は、反日民族教育の先鋒になった。学生は、高等班と初級班に分けられ、教科目は歴史、地理、数学、政治学、国際工法、法理などだった。教員はみな熱烈な反日民族活動家であり、すべての授業で反日愛国思想を貫徹することを第一とする準則により、学生たちに反日意識と民族意識を注入した(以上、高句麗研究会, 2014d)。

館内には、移民の歴史から始まり、日本統治時代の抗日運動と闘争、抗日烈士の活躍、明東の学校教育、女学校の生徒の授業風景など、写真を中心とした歴史資料が掲示されている。一次資料の陳列品・閲覧物はなかった。現龍井中学は、いくつかの学校が統合されて現在に至っているようだ。前庭の祈念碑には、恩真中学校(尹東柱在籍校)、永新中学校、東興中学校、大成中学校、槿花女子中学校、明信中学校の校名が掲げられている(図35・図36)。1900年代に入り日本軍が進軍してくると、学校への介入、支配も行われた。

日本の陸軍将校(少尉)に任官し、滿洲國国軍陸軍将校(少尉)になったキム・ヨンタク(2012)は、当時の延辺の学校について語っている。「当時、(旧滿洲國の)龍井の大成中学校(現・龍井中学校)に通っていた友人が『そこ(滿洲國)に行こう』と言ったので、その中学校で勉強する目的で学籍簿(の生年月日)を1921年4月5日にしてもらって(1年遅らせてもらい)龍井に行きました。光明中学校が龍井でいちばんいい学校でした。日本の中学校ですからね。いい仕事を

見つけるためにもそこに入ったのです」。中学校に進学する人が割合として多かったという。「私が通っていた龍井の光明中学校は日本が設立した中学校で、満洲國でも一流の学校でした。だから、入学試験は難しく競争率が5倍以上の難関校でした。…(街に)中学校は多かったです。私が通っていた光明中学校……日本の中学校のほかに、大成中学校、恩真中学校もありました。その恩真中学校はキリスト教系の学校でした。それから東興中学校がありました。ここはいわゆる韓国式の中学校でした」。龍井市党史弁公室の関係者の話として、当時の学校が次のように紹介されている(朝鮮族ネット, 2007)。光明女子中学校は1921年5月に日本人が龍井に建てたもので、1934年7月、光明学園高等女学部と改称、1938年1月には省立龍井女子国民高等学校と改称した。1943年5月、私立龍井明信女子国民高等学校と合併し、1946年に龍井中学に編入された。光明高等女学校は1945年の日本敗戦とともに統廃合されたため、46年卒業生が最後となる」。朝鮮族学校の統合や「国民高等学校」等校名称変更には日本の統治が影響している。

日本の教育支配と国民学校 「祖父、稲賀裏は1943年9月1日づけで、龍井高等女学校に赴任した。それまで存在した光明女学校と併合し、これを龍井女子国民高等学校へと改組し、これに並んで、間島女子師道学校を立ち上げるのが、その主たる業務だった」(鈴木・劉建, 2011)と語られるように、龍井の学校教育は日本の支配を逃れることはできなかった。朝鮮族の民族教育は、清朝と国民党政府の施策と日本の支配の狭間で揺れ動き、喘いでいた。当時の韓国・満洲の朝鮮族の教育事情を権寧俊(2005)によって見ておく。

「日本の支援・補助学校は、朝鮮総督部と満洲國鉄道会社によって設立された学校である。…1908年2月には、最初に在間島朝鮮人対象の間島普通学校を設立した。…1928年5月段階の東北3省では、間島普通学校が5ヵ所、満鉄経営朝鮮人学校が7ヵ所に増えた。…全東北3省朝鮮人学校総数の1.69%を…、間島地方の普通学校は全東北3省の普通学校総数の41.7%を占めていた」。間島日本総領事館設置(1909年)後、日本による教育支配が急速に進んだのである。

他方で、「中国官立学校は、中国(清朝と民国)政府によって設立された学校である。……日本勢力を排撃する目的で朝鮮人民族学校を中国官立学校に転換させた。…1907年3月には延辺…『養正学堂』が最初に中国官立学校に転換し、1910年1月段階では延辺だけで9ヵ所の学校が転換された。…次々と朝鮮人民族学校が中国官立学校に転換された」。中国官立学校への転換もこの時期に進んだ。「1912年中華民国が設立され…朝鮮人にたいする学校教育が一層強化され…た。1915年8月…「劃一墾民教育方法」を制定した。…中国語を毎週最初12時間学習すること…であった。…間島内の朝鮮人私立学校は、中国学制にしたがって国民学校と改称し、多くの朝鮮人私立学校が廃校となった」。朝鮮人教育は、初等教育を中心に、中国と日本両国によるせめぎ合いの中にあつたことを示すものである。

1931年9月の「満洲事変」と、傀儡国「満洲國」建国で事態は急激に悪化した。在満朝鮮人は「満洲國」第2等国民(1等は日本人、3等は漢人)とされた。「朝鮮人が運営してきた数百ヵ所の私立学校が焼き払われ、取り締まりをうけ、革命意識と民族意識をもっているすべての教員と学生たちは残酷に弾圧された。…小学校と中学校を強制的に『国民学校』『国民優級学校』『国民高等学校』に改めた。1944年の延辺の統計によれば、小学校は557校(多くは初級小学校であった)、在學生は96,700余名であり、中学校は18校(多くは職業学校)、在學生は6,700余名であった」。光明学園高等女学部が1938年1月には省立龍井女子国民高等学校と改称、大成中学校については「翌39年5月末現在では、私立龍井大成国民高等学校の名前が消え」(原・潘・隈部, 1995)とあり、校名改称の詳細は分からないが、日本の統治による学校名称変更であることは確認できる。

龍井中学校からさほど離れていない所に旧「龍井日本総領事館」がある。現在、龍井市の役所として利用されている。香春さんが心配した検問もなく、写真撮影もできた。入り口すぐ右には旧施設があるが、建物は今職員家族の住宅になっていた。旧領事館の裏手にはかつて地下に造られた刑務所の入り口があった。現在は入ることはできないとのことである。旧領事館は、延辺支配のための「日帝」の拠点となったところだ。

明東村と尹東柱 龍井から車で20、30分のところに、「空と風と星と詩」の朝鮮族詩人尹東柱

表3 ユンドンジュ（尹東柱）生涯・略歴

年月日	事 項
1925年4月4日	明東小学校入学（宋夢奎も在籍）
1931年3月20日	明東小学校卒業、宋夢奎らと共に少し離れた（約4Km）大拉子の中国人小学校6学年に編入し一年間修学
1932年4月1日	龍井のミッション系恩真中学校に入学（宋夢奎も）、一家で龍井に転居、
1935年9月10日	恩真中学校4年の1学期終了後、平壤の崇実中学校に転校、編入試験に失敗し3学年に編入
1936年3月1日	日帝の神社参拝強要に抗議し自主退学、龍井に戻る。光明学園中学部4年に編入（4月 宋夢奎中国で独立運動の角で日本警察に逮捕され、要視察人として監視される）
1937年4月1日	卒業組の5学年に進級、宋夢奎は大成中学校（4年制）の4学年に編入。
1938年2月17日	光明中学校5学年を卒業、4月9日ソウル延禧専門学校文科に入学、宋夢奎らと3人で一部屋で共同生活
1939年	文科2学年に進級、寄宿舎を出て下宿生活（尹東柱・尹柱・尹童柱の筆名で発表）
1940年	寄宿舎に戻る
1941年12月27日	戦時短縮により延禧専門学校を3ヶ月繰り上げ卒業
1942年	専門学校卒業後、一ヶ月半ほど故郷の家に滞在、留学のため「平沼東柱」に創氏改名（1939年11月創氏改名令公布、1940年2月11日施行）
1942年3月1日	日本に渡航
1942年4月2日	東京・立教大学文学部英文科入学（宋夢奎は「宋村夢奎」に創氏改名し渡日、4月1日京都帝国大学史学科・西洋史専攻に入学）
1942年10月1日	京都・同志社大学英文学科に転入学
1943年7月14日	尹東柱、特高警察・下鴨警察所に検挙される（7月10日、宋夢奎が特高警察・下鴨警察所に独立運動の嫌疑で検挙される）。判決確定後福岡刑務所に移送。
1943年12月8日	尹東柱、宋夢奎ら検察局に送致
1944年2月22日	尹東柱・宋夢奎起訴される
1944年3月31日	京都地方裁判所第二刑事部尹東柱に「懲役2年」（未決勾留日数120日算入を宣告（刑の確定は1944年4月1日、出獄予定日は1945年11月30日）
1945年2月16日	午前3時36分、福岡刑務所内で一声、悲鳴をあげて絶命
1945年2月18日	父・尹永錫、いとも尹永春遺体引き取りに渡日。福岡刑務所内で宋夢奎と面会。「所内で中身の分からない注射を打つよう強制され、東柱がそれで死んだ」との証言を聞く。
1945年3月6日	北間島龍井東山・中央教会墓地に尹東柱の遺骨を埋葬。
1945年3月7日	宋夢奎、福岡刑務所で「目を開けたまま」絶命。
1945年春	「詩人尹東柱之墓」・「青年文士・宋夢奎之墓」石碑建立。

（尹一柱編 1984 尹東柱全詩集 空と風と星と詩（伊吹郷訳）影書房
 宋友恵 2009 空と風と星の詩人 尹東柱評伝（相沢革訳）藤原書店
 より）

の記念館がある。明東の尹東柱の生家である。幹線道路から脇道に入る入り口にハングルで「ユンドンジュ生家」と刻字された大きな自然石が立っている。記念館入り口には「中國朝鮮族愛國詩人 尹東柱故居」の石版がかかっている。純農村地域で、記念資料館、生家などの管理は地元の住民が行っていた。資料館には、原資料は全くなかったが、朝鮮族の歴史を人物中心に写真で展示していた。明東に関わる小冊子が発行されていたが、ハングルでは「写真集」と表記されている（明東歴史展示館，2013）。

携帯電話で訪問を告げると、少し離れた家から、凍りついた緩やかな勾配の道を一人の男性がゆっくり上がってきた。できたばかりの真新しい大きな木製の門を開けてくれた。館は木造で教会だそうだ。

朝鮮北部から肥沃な土地を求めての移住であった耕作に適した土地とはいえ、厳しい自然環境の中での開墾は苦しいものだったに違いない。さらに日本の強制による移民は、収奪と搾取そのものであった。河は雪が覆い一面に凍りついている。道路や周辺の田畑に雪はまったくない。積雪は少ないが、肌を突き刺す乾燥した寒風が吹き、冬を過ごすには極めて厳しい気候だ。辺り一面氷に閉ざされる延辺の厳冬が、人々に知恵を巡らせ、民族の誇りと文化を守り、戦い抜く力を培ってきた。

明東の地域は、延辺の朝鮮族の教育発祥の地であり、抗日の担い手を育成した中心地だ（高麗研究会，2014）。保存されている尹東柱の生家（1917年生誕）に入ると（図37・図38）、尹東柱の写真が飾られ生花が供えられていた。「詩人ユンドンジュ逝去68周年追慕」のこぼ（ハングル）が添えられていた。父親は明東学校の教員で、日本留学もしている。母方の漢学者の家系を引き、識見豊かな文化的な家族で、経済的にも恵まれた家庭であった。家は質素な印象を与えるが、ミシンが置かれていて当時の裕福な境遇を推測できる。感性豊かな尹東柱は早くから才能を発揮していた（表3）。第二次世界大戦を目前にした時代の閉塞は、彼に重くのしかかり、進む学校の変転、日本への渡航・留学・編入に鋭く反映している。龍井中学校（旧大成中学校）は彼が通った学校といわれるが、在籍校は恩真中学であった。改称・併合を経て今日に至る旧大成中学校の歴史は、「日帝」の統治に翻弄されたことを物語っている。明東に生まれた尹東柱は、クリスチャンとして洗礼を受けた。いとこの宋夢奎（ソンモンギユ・1917年生誕）は、尹東柱との関わりが深かった。宋は、日本の京都大学に進み、治安維持法に抵触する嫌疑で「特高」に検挙され、尹東柱と同様福岡刑務所内で獄中死した。世界大戦とロシア革命の発生、その渦中で着々とアジア侵略を進めた日本、尹東柱の苦難の生涯と不条理な死は、学校教育で学ばなかった「隠された日本の歴史」を私が知る貴重な機会となった。それと同時に、日本の軍国主義と植民地支配を抜きには考えられないア



図37 尹東柱の生家



図38 棚に残るミシン

ジア、特に韓国、中国、台湾、等々、東アジアの国々との歴的な関わりを学ぶ場が、学校教育になければならない。近現代史を中等教育の中核の一つに据える必要がある。まず、日本とアジア諸国との関係を、歴的な事実にして知らなければならない。多くの日本人が、日本の近現代史を学ぶ機会を持たないところに最大の問題があるということである。

考察

延辺を訪れ、この地が日本が建国した傀儡国家「満洲國」だったことを初めて認識した。博物館や革命紀念陵園で、日本の植民地支配の実態を被支配国の住民の視点から知ると共に、抗日運動がどのように展開されたかを知ることができた。特に龍井の旧大成中学校、歴史記念館は、朝鮮族が如何に教育を重視してきたかを教えるものであった。戦争為政者・軍は領土を占拠し、人々の社会、生活、制度、信念、思想、文化、伝統、言語、すべてを支配・統治する。そのための最も基本的な手段が、植民地教育である。「伯父さんは、中国人でありながら中国後を話せず、日本語を話す」、香春さんが話した通り、日本が欺瞞的に鼓吹した「朝鮮族解放」は植民地化そのものだった。しかし、征服者に対抗する力もまた教育によって培われる。展示資料は、このことを明確に教えてくれた。

延辺地域の日本語教育は、1909年、「間島普通学校」が開設されたことに始まるという。そこでは、修身、国語、算数、日語、図画、体操、理科、物理、地理、歴史などが教えられた。国語とは、朝鮮語を指している。1910年の日韓併合で、日本語教育は本格化して、1945年の日本の敗戦で日本語教育が廃止されるまで続いた（山本、2011）。1931年の満洲事変は事態をさらに悪化させた。権（2005）は次ぎのように指摘する。『国民学校』『国民優級学校』『国民高等学校』（小学校・中

表4 キム・ヨンタクさん（旧満州国軍）の「軍官学校」証言

証言記録の内容（一部）	
Q：実際、軍官学校に入ったときはどういう生活を送りましたか？	生活上では日本の士官学校と全く同じでした。1期に500人がいましたが、その中の250人が日本人で、250人が満州国の五族（筆者注・五族＝漢族、満州族、モンゴル族、朝鮮族、日本人）でした。だからこの250名の中に韓国人もいましたし、台湾やモンゴルの人もいました。
Q：軍官学校の教育はどういうものでしたか？	軍官学校での教育は日本の士官学校と全く同じ教育でした。日本人が担当をしていたからです。
Q：教練の内容も日本語でしたか？	もちろんです。私が学校にいたとき、校長は中国人で、生徒隊長は日本人でした。私の区隊長（生徒を指導する役割）は中国人でしたが、日本人（クラス）の場合は日本人でした。私の区隊長は中国人でしたが日本の士官学校の出身でした。ですから授業などは全部日本語でした
Q：日本語での授業は、ついて行くのに大変ではありませんでしたか？	校長を日本人にしなかった理由は、中国人の反感を避けるためです。わざわざ中国人を校長にすえたのです。実際にすべての学生を教育し統率する生徒隊長は日本人でした。その生徒隊長は後に校長になりました。
Q：日本語での授業は、ついて行くのに大変ではありませんでしたか？	いいえ、そんなことはありませんでした。小学校のときから授業は日本語でした。日本語で話していたので、それほど難しくはありませんでした。また、中学校では韓国語で行われる授業は1科目もありませんでした。だから、解放後にハングルの読み書きを勉強しました。中学のときはハングルも全くできませんでした。

注) Qは質問事項を表す。

2012年3月17日収録 NHK「証言記録 兵士たちの戦争」より抜粋

学校)は、民族同化教育を強くおしすすめ、朝鮮人学生が自民族の文化を学ぶのを禁止し、日本語だけを使わせ、それにそむけば厳しい処罰を受けた。そのため、多額の「入学金」と「学費」を出せなかった多くの青少年が文盲あるいは半文盲となった。

NHKが収録した[証言記録 兵士たちの戦争](キム・ヨンタク, 2012, 表4参照)によっても「皇民化教育」は裏づけられる。「Q:日本語での授業は、ついて行くのに大変ではありませんでしたか?」との問いかけに、明快に答えている。「いいえ、そんなことはありませんでした。小学校のときから授業は日本語でした。日本語で話していたので、それほど難しくはありませんでした。また、中学校では韓国語で行われる授業は1科目もありませんでした。だから、解放後にハングルの読み書きを勉強しました。中学のときはハングルも全くできませんでした」。小学校から日本語でのみ教育が行われてきたと証言している(表4)。母語の喪失が強要されたのである。

尹東柱は、1932年にミッションスクール恩真(ウンジン)中学校に入学した。「太極旗をはためかせ、愛国歌をうたう」、愛国的学校とはいえ、教育は日本に支配統制されていた。「恩真中学校の教科書は全部日本語できていた」、「この言葉に重ね合わせてみるときにのみ、恩真中学校の真の姿が、そしてそこにおいてさえそうであるほかなかったあの時代の真の姿が現れるのだ。とてもおもしろいのは、先生たちが日本語でできた教科書を広げては、そのまま朝鮮語ですらすらと読んでいったということだ。もちろん教えるのも朝鮮語だったし、ぼくらはそのように教育を受けて育ったんです」(宋, 2009, p.128, イタリックは文益煥牧師証言)。教育を支配することは、文化の核心であることばを占領・略取し、思考や意思疎通の道具を剥奪することである。それは、民族の歴史を改竄し捏造することにつながる。戦争が人々を救うことはない。地獄の苦しみを与え、無間地獄に突き落とす。支配者と軍隊による究極的な暴力以外の何物でもない。記(紀)念館の展示資料を見、聞き取りをして学んだことだ。戦争をなくすために、過去は現在に連なることを知らなければならない。戦争史跡・資料から私たちが学ぶことは尽きない。

引用文献

(延辺朝鮮族自治州延吉市)

尹東柱編(1984)尹東柱全詩集 空と風と星と詩(伊吹郷訳) 影書房

延辺博物館(2014)延辺博物館概況(発表時間:2012年11月21日)http://www.ybbwg-china.org/two_level_d.asp?id=243&type=走进博物馆

岡村志嘉子 2004年12月 中国の愛国主義教育に関する諸規定 国立国会図書館 レファレンス(647) 69-80 (http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/287276/www.ndl.go.jp/jp/data/publication/ref/200412_647/064705.pdf)

吉林政府ネットワーク管理事務室管理営業(2013)延辺博物館が落成し正式に对外开放(http://japanese.jl.gov.cn/xw/201209/t20120904_1268521.html、2012/09/04出所:吉林省政府ホームページ、より)

金銀実(2012)韓国在住の中国朝鮮族をたずねて—問題発見の旅—日本アジア研究 第9号 63-73.

金明姫・浅野慎一(2013)韓国における中国朝鮮族の生活と社会意識 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 第6巻1号 53-62

キム・ヨンタク 2012年3月17日収録 NHK [証言記録 兵士たちの戦争](満洲國軍)(http://cgi2.nhk.or.jp/shogenarchives/shogen/movie.cgi?das_id=D0001100843_00000)

高句麗研究会(2014a)朝鮮族近現代史 走狗精算逃走、土地改良運動(朝鮮族ネット <http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/history/index.html> より)

高句麗研究会(2014b)朝鮮族近現代史 自衛戦争で勝利、戦利品防衛(朝鮮族ネット <http://www.sea>

- rchnavi.com/~hp/chosenzoku/history/index.html より)
- 高句麗研究会 (2014c) 龍井3.13反日運動 (朝鮮増ネット、<http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/history/11.htm> より)
- 高句麗研究会 (2014d) 瑞甸書塾 (朝鮮増ネット、<http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/history/11.htm> より)
- 権 寧俊 (2005) 朝鮮人の「民族教育」から朝鮮族の「少数民族教育」へ 文教大学国際学部紀要 第15巻 2号 175-202 (<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/lib/slib/kiyo/Int/it1502/it150212.pdf#search='%E6%A8%A9+%E5%AF%A7+%E4%BF%8A+%E6%96%87'>)
- 在日中国大使館 (2009) 中国概況 行政区画と都市 (<http://jp.showchina.org/15/09/200906/t351552.htm>)
- 姜龍範 (2011) 中国朝鮮族の視角から見た日本の歴史教科書改定問題 関西大学人権問題研究室 9-29 CNN.co.jp 2014年7月16日 中国、旧日本軍人の供述書を公開 日本批判強める (<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20140716-35050979-cnn-int&pos=2>)
- 鈴木貞美・劉建輝編 2011年3月 中山大学・国際日本文化研究センター共催 国際シンポジウム報告書 国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp/~aurora/pdf/110331enpen.pdf#search='%E5%BB%B6%E8%BE%BA+%E5%85%89%E6%98%8E%E5%9B%BD%E6%B0%91%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1'>)
- 宋友恵 (2009) 空と風と星の詩人 尹東柱評伝 愛沢革訳 藤原書店
- 総務省統計局 (2010) 世界の統計 (<http://www.stat.go.jp/data/sekai/pdf/2010al.pdf>)
- チェ・ククチョル 2009年6月9日 紅色教養基地、延辺革命烈士陵园 延辺日報
- 朝鮮族ネット (2014) (<http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/news7/090608-3.htm> より)
- 中華人民共和国駐大阪総領事館 (2013) 国土・人口・民族 (<http://osaka.china-consulate.org/chn/zt/zggk/t536214.htm>) (2013年7月5日)
- 中華人民共和国駐大阪総領事館 (2014) 国土・人口・民族 (<http://osaka.china-consulate.org/chn/zt/zggk/t536214.htm>)
- 中国吉林省延吉市人民政府 (2013) 中国吉林省延朝鮮族自治州・延吉投資指南 (<http://www.searchnavi.com/~hp/yanji/gaiyo.htm>)
- 中国まるごと百科事典 (2014) (<http://www.allchinainfo.com/map/asia-china/asia>)
- 朝鮮族ネット (2007) 延吉の建築現場で70年前の碑石発見 (<http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/news5/071121.htm>)
- 独立行政法人・科学技術振興機構 (2014a) 延辺大学 Science Portal China (http://www.spc.jst.go.jp/education/university/univ_036.html)
- 独立行政法人・科学技術振興機構 (2014b) 中国国家重点大学 Science Portal China (http://www.spc.jst.go.jp/education/university/univ_000.html)
- 日本貿易振興機構 (ジェトロ) 大連事務所 (2012) 延辺朝鮮族自治州概況 (https://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/tohoku/pdf/overview_yanbian_201205.pdf#search='%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%88%E3%83%AD+%E5%BB%B6%E8%BE%BA')
- 原正敏・番小琴・隈部智雄 (1995) “満洲国”における技術員・技術工養成 (Ⅲ) —国民高等学校工科と職業学校—千葉大学教育学部研究紀要 第43巻 E 人文・社会科学 143-160 (<http://mitizane.ll.chiba.jp/metadb/up/AN10494742/KJ00004297036.pdf#search='%3%80%82%E9%BE%8D%E4%BA%95%E5%9B%BD%E6%B0%91%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%AD%A6%E6%A0%A1'>)
- 明東歴史展示館 (2013) 記念写真集 明東歴史展示館
- 山本忠士 (2011) 延辺朝鮮族自治州の日本語教育 アジア研究所・アジア研究シリーズ NO.77 「延辺朝鮮族自治州の社会・経済の変容と適応」(西澤正樹代表) 87-113

※本研究は、平成25年度 (2013年度)・平成26年度 (2014年度) に学術振興会より科学研究費 (課題番

号 25381012) の助成を受けて行ったものである。

(2014年9月29日提出)

(2014年10月10日受理)

The influence of the two world war, the World War I and the World War II, on the research on Japanese educational psychology (II).

Focusing on the relationship of Japan with other three countries, Taiwan, “Manshu-koku” (China) and France

BANZAI, Tomohide

Faculty of Education, Saitama University

Abstract

The purpose of this study is to clarify the background of the times when psychological studies about school education increased during the World War I and World War II. I analyzed the social context of that times, referring to “Taiwan” which was a colony of Japan and the “Manchurian” of “MANSHUKOKU” in northeast China which was established by Japan. Total discussion was made referring to France which was the one of the allied powers which fought against Germany, Japan, and Italy in the world war second. In the discussion I presented the three problems that the war brought us from viewpoints of the educational psychology. The first one is that “the war does not save people, and the forces repeat massacre and barbarity”. The second point is that the resistance movement, and the resistance for the occupying power save country. The third is, “the ruler forces the education of the ruler’s country on the colony people”. About the first problem, I pointed out the essential characteristics of violence that all of the war has, referring to the massacre occurred in Taiwan and the brutal conducts to the “Manchurian” in northeastern China by Japanese army. I also referred to the erasure of the Oradour villagers conducted by the Nazi SS in France. About the second point, I proved “anti-national traits” of the war. As an example, I showed the evidence that a lot of citizen and many of the democratic leaders were killed by Japanese army and by “Kuomintang of China” government immediately at the end of the world war, using the three kinds of materials displayed in the “228 Memorial” in Taiwan, the “Memorial Park of the Revolution Patriots” in State of China, Yanbian Korea group self-government Yanji City, and the French “Resistance Memorial”. On the third point, I made it clear that the government utilize educational system of their country to make influence on colonial inhabitants in the war time. As an example, I explained that Japanese government implanted Japanese educational system into Taiwan and China which were the colonies of Japan, and forced the colonial people to use only Japanese language. In every time and everywhere, great many of civilian lives were sacrificed during the war. The war does you and your enemy no good and much harm for both countries. This is the conclusion of the main subject.

Key Words : educational psychology, world war, education in colony, Shoah, resistance against Japan,